

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		04 03 17	中期総合計画主要施策番号		3-04、3-06		担当課	部・課	社会部長寿福祉課		
事業名		認知症高齢者対策・高齢者虐待防止県民運動事業				内線		2436			
						E-mail		choju@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	・「認知症高齢者とその家族を地域で支えていく」、「高齢者虐待を許さない」という意識の浸透を図ることにより、高齢者が安心して生活できる社会の形成を目的とする。									
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・認知症は、徘徊など一部の行動障害が強調されたり、本人は何もわからないといった誤ったイメージで理解されることが多く、住民の理解が不足しているとともに、虐待事例が後を絶たない。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・市町村が認知症の啓発を行うためのパンフレットなど有効な資源が少ないことや、魅力ある講演会の開催など住民への啓発機会の提供が、個々の市町村特に小さな町村では難しいこと。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・住民が認知症を正しく理解することにより、早期発見と適切なケアを実現し、本人及び家族の負担を軽減することが必要である。 ・高齢者の尊厳を守る意識を高め、虐待を防止することが必要である。									
		事業内容	・講演会等の実施(県内4か所)による地域啓発事業の実施 ・認知症理解・高齢者虐待防止啓発パンフレット等の作成								
		実施期間	H元 ~		根拠法令等	人権啓発活動地方委託要綱					
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
・認知症や虐待事例に関する知識の普及を図る。		・講演会等を県内4か所で開催すること。 ・パンフレットを作成・配布すること。			・講演会等を県内4か所で開催するとともに、パンフレットを作成・配布し、認知症や虐待事例に関する知識の普及を図った。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下				
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)		千円	1,525	1,638	1,349	国庫・県庫	国庫			
	決 算 額 (B)		千円	1,517	1,636		実施方法	直接			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	0	0	0	歳出節別内訳等	報償費:344 使用料:141 需用費:1,151			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.50	0.50	0.50	(単位: 千円)				
	概算人件費 (C)		千円	3,570	3,575	3,575					
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	5,087	5,211	4,924						
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	地域啓発事業		箇所	4	4	4					
	パンフレット作成		部	50,000	50,000	50,000					
	高齢者虐待事例集		部	1,000							
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・認知症高齢者数が増加する見込みであることから、ニーズは増加すると考えられる。 ・パンフレットの印刷や講演会の実施など、県が実施した方がスケールメリットを得やすい。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	課題の総括		・事業のスケールメリットを考慮し、引き続き講演会の開催等により認知症や虐待事例に関する知識の普及を図っていく。								